

平成23年第1回支部長會議
・第1回通常総会に出席して
山田信明

平成23年度第1回支部長會議
6月18日(土)JACルーム

夜行バス(イルカ交通)で上京したためトップで会場入り、次に到着した高橋宮城支部長から大震災の被害状況などお聞きした。出席支部長29名(代理出席2名)のうち、新支部長となった7名から冒頭挨拶があった。

尾上会長の挨拶では、東日本大震災の募金額が4百数十万円となったが次期執行部でPTを作ってこの扱いについて決定したい。

議事では、新法人移行に伴う「支部に関する規定改正案」新旧比較が提示され、吉永氏から説明があった。本部と支部との関係において、事業の一体化、一体的な会計処理、支部長の任免が条件である。各支部では現行支部規約を変えることはないが、今後本部から支部へ渡る運営交付金および事業補助金についてはその用途を統一様式で報告する義務が生じる。

平成23年度第1回通常総会
午後2時から 主婦会館プラザエフ

通常総会は主婦会館で午後2時から開催され、出席会員190名、有効委任状3,976と報告された。

議事が始まって1号議案の「新法人移行にともなう定款変更(案)承認の件」で議論が沸騰し、5時半すぎ挙手による採決が行われたあと私を含め帰りの都合で退席する会員が多々あった。したがってその後の議論は承知していないが、5時間半におよぶ長丁場で事業報告や決算報告等も含め原案どおり承認されたとのこと。また新理事・監事・評議員も承認され尾上会長が23-24年度の会長として再任された。

以上7月6日の支部役員会の席上報告しましたが、詳細は会報7月号を見て下さい。

月例山行「歩くスキー」
河村靖晴

日時 平成23年 5月14日(土)立山駅8:00
コース 室堂～弥陀ヶ原～美女平
メンバー 金尾誠一(リーダー)、河村靖晴(記録)
天候 室堂:雪とガス、弥陀ヶ原&美女平:曇

予報では曇り時々晴れだったので期待しながら室堂に向かった。残念、室堂は雪とガスで視界不良だ。それでもバスターミナルは観光客やスキーヤー等かなりの人で賑わっていた。雪の大谷では高さ15mと去年より3m程高く圧観だった。3月11日の東日本大震災と原子力発電所事故の影響か外国人の姿は殆ど見られなかった。

9:30スキーにて室堂出発、

天狗平を目指しバス道路左側斜面を下る。気温は氷点下以下で雪はバリバリ天狗平山荘までは緩斜面で雪上車が通った跡を辿りバス道に落ちないように慎重に下る。天狗平山荘に着いた頃から徐々にガスもはれ雪も止み視界良好となってきた。ここから弥陀ヶ原まで一気にスキー滑降と思いきや、急斜面をトラバース気味に斜滑降、右足加重の姿勢が続きリラックスした滑りが出来ない。やっと弥陀ヶ原の立山荘が眼下に現れた。ここから立山荘までは斜滑降から開放されリラックスしながらの滑りができた。弥陀ヶ原の立山荘到着10:30

立山荘では本会員の村上清光さんが世話役として従事されており、お会いすることが出来た。暖房の効いたロビーで昼食後、コーヒーをご馳走になりながら、近況や弥陀ヶ原周辺の見所、美女平へのコース情報等々楽しく歓談させてもらった。

11:30スキーにて立山荘出発、美女平に向けバス道路右側の緩斜をゆっくりと景色を堪能しながら下る。弘法を過ぎ八郎坂への分岐点辺りから木々が多くなり、避けながらの下りとなる。気温も上がり雪質は重たいザラメ質となってきた。八郎坂分岐点と滝見台の中間点辺りでスキーでの下りを止めて道路左側の桑谷辺りをまたスキーで下る。

1km程で谷も深くなりバス道から離れ始めたので再度スキーをあきらめバス道へ登り返す。この辺りは称名滝の滝見台より少し上部、今日はここまでのスキーとなった。後はスキーを担ぎ美女平までただひたすらバス道を歩くこと2時間余り、14:30やっとの思いで美女平へ到着できた。

[伊吹山登頂と播隆上人跡] 近藤晋

7月2日(土)7時本郷さんの車で山田支部長宅へ回り彼の車で高速小矢部ICで石浦、金尾、山岸さん達と合流し一路、播隆上人の足跡を尋ねるため岐阜県揖斐川町へ向った。外は曇り空で気温は30度を超していた。

11時すぎ揖斐町民族歴史資料館へ到着し見学に入館した。ここの学芸員にお願いし播隆が使っていた托鉢椀、錫杖、大鉦を特別に拝見させて頂いた。今から約170年前55歳で入寂した上人が使用した野性味の濃いそれらの道具は歴史の重さを伝えてくれた。ここの館員の対応は実に親切だった。

次に播隆が開いた「一心寺」を訪ねた。揖斐の町から200米ほど山手へ入った草深い草庵で本堂は朱塗りで葵や菊の文様の入った瓦が積まれていた。庵主さんは相当高齢の穏やかな人で庫裏へ招き入れ茶菓でもてなしてくれた。

ここに播隆の木像があると聞いてきたので拝観をお願いすると、笑いながら奥から両手で抱いて持ち出してくれた。最近では不届き者が多い故か普段は本堂には祀ってないようだった。

また寺の後ろにある播隆のお墓にお参りしていると庵主さんがわざわざアジサイの花を供えに持ってきてくれた。その後ろの山にある揖斐城跡まで500mlほど登り「つわもの共が夢の跡」の昔を偲んできた。

庵主さんと播隆の木像と一緒に写真を撮らせてもらったり一緒にお墓参りをしたり、庵主さんはこんな変わったお客は初めてだったろう。

お寺を後に伊吹山二合目の今日の宿舎「ロッジ山」へ入る。オーストリア材のログハウスは主人の手作りと云う、また奥さんはとても垢抜けした感じの良い人だった。そよ風に吹かれながら持参のお酒で酒盛りをする。眼下に長浜の町からその向こうに琵琶湖が霞んで見えた。

伊吹山の端に夕日の沈むころ食事について。夕食はブタ鍋とうどんに冷豆腐、五目飯とハイカラで申し分ない味付けがしてあった。夜はヒメポタルが出るそうで今晚は登山者が夜登山し夜中に頂上へつき、ホテルを見て半泊して朝帰りするそうだ。そういえば横の登山道からボツボツ登山者が登り始めていた。

翌3日(日)は6時に食事を取り6時50分出発する。空は薄曇りでとても蒸し暑い。この登山道はスキー場につけられ三合目から六合目あたりまでヨモギを主にした大草原である。スキーには実に快適な斜面と思われるが、最近のスキー離れから数年前スキー場は廃止になり錆びつた鉄塔やワイヤーが風に揺れていた。

六合目に立派な石積みの避難小屋がありその辺りから山は急傾斜になってきたが登山道はジグザグを刻み急勾配を感じさせない。2時間30分で頂上へ到着した。深田久弥の百名山であり花の百名山でもあるこの山は思ったより花は少ない。然し富山では一寸見られない「イブキジャコウソウ」「キバナノレンリソウ」「イブキトラノオ」「ユウスゲ」「クサフジ」などが目に入った。ジャコウソウはまだ少し早いので花は無かったが一面の大草原を見ると日本一の薬草の山であるとの認識を新たにする。

バスで登ると頂上すぐそこまで来ることができる。頂上には大きなお土産屋が3~4軒生ビールやアイスクリームを売っていた。以前は気象測候所もあったが最近取り壊されたという。離れたところにポツンと一等三角点があったがこれを見に来る人は少ないようだった。

また小さなお社があつて「円空佛」が祭られていた。神主さんと立ち話をして「私は50年前ここへ登ったことがあります」と話したら驚いていた。

私が名古屋支店時代に岳友の川口さんに連れられスキーで登ったのがもう50年前のことなのだ。我ながら随分歳をとったものだ。今日も標高差800mを2時間30分で登れたとはまだまだ捨てたものではない？

この登山で最も感じたことは“山ガール”スタイルの女性とその同伴若者の多いこと、中高年者は10%もいなかったように思う。富山では考えられない！

ワラビを摘み摘み下山、帰路に伊吹山文化資料館へ立ち寄り「播隆上人直筆の南無阿弥陀仏の六字の名号」の古色蒼然たるお軸を拝観させて頂く。この軸もわざわざ家までとりに行つて頂き大変親切な対応をしていただいた。

今回の山行はなかなか収穫の多い楽しい旅だった。
(近藤 山日記より)



伊吹山頂で
記念写真

城台山播隆院一心寺にて



播隆木像



一心寺開山としての
播隆像



播隆の墓



本堂で庵主さんを
囲んで記念写真

第26回播隆祭 金尾誠一

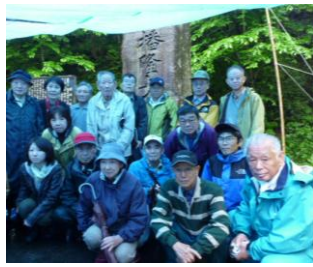
支部の恒例行事「播隆祭」も26回目。今年は山の積雪が多く道路の開通が大幅に遅れたため、5月29日(日)に延期しての開催となった。

前日は高頭山の登山整備に汗を流したが、翌日の天気気がかりであった。案の定、朝からの雨で総出で雨対策の設営となった。(丸太とシートで)

ほぼ予定通りの9時、支部会員と「生家の会」の方々を合わせて25名が参加して式が開始された。

山田支部長の挨拶、全員による焼香、「生家の会」の大作さんの挨拶、全員で記念写真を撮った後、一年ぶりの再会を喜びながら懇談した。

悪天候にもかかわらず、播隆上人の徳を慕って集まれた方々を心強く思わずにはいられなかった。今後とも支部として上人顕彰の活動を活発に行なうことを心に約した。なお、高頭山登山は中止した。



2011年度 自然保護全国集会 金尾誠一

平成23年の自然保護全国集会は福岡市の「西鉄イン福岡」で開催され、全国から20支部約90名が参加して行われた。

6月11日(土)、午前中は各支部の報告、午後から山川委員から「屋久島問題とくみの経緯と課題」、日本エコツーリズムセンター代表理事の広瀬敏通氏が基調講演「エコツーリズムとは」が行われた。

その後、「これからの屋久島を考える」として5名の方によるパネルディスカッションが行われた。

翌12日(日)は、雨天のやめ参加予定していた「宝満山」登山は中止となり、大宰府天満宮などの見学となった。

屋久島の問題や全国の支部で問題となっているシカの食害など参加してその切実さに刺激を受けてきた。まずは、支部の皆さんにそのことを紹介することから始めたい。

第36回 県民登山教室 山岸和子

位山1529.2m(二百名山)～川上岳1625.9m(三百名山)

2011年6月26日(日)小雨のち晴れ

位山～川上岳縦走コースは個人では中々行けない山域、日帰の県民登山と聞き即申し込みました。日程表には行時間約9時間35分、歩行距離約27km標高差約716mと歩きがいがあります。

小雨降る中、道の駅モンデウススキー場より5班編成で出発です。私は正橋会員と同じ5班です。

近年注目のパワースポットの山でもあり、心わくわくしながら梅雨空に色彩色の合羽がイチイ原生林に生えます。数多くの巨石もあり神秘的に感じます。サラサドウダンツツジが沢山あり丁度、花が見頃です。鼻先が赤く染まった花、白花のサラサドウダンの登山道はトンネルです。秋の紅葉もきつと鮮やかでしょう。伝説の天の岩戸鏡岩、10時40分着。幼児、小学生の親子連れ何組かに出会い微笑ましく心ななみしました。雨で泥濘登山道は子供達の泥んこのスニーカーが気になりました。

程好いアップダウンの天空遊歩道は7.7km、周りの山々展望しながら川上岳の山頂に15時着です。生憎の曇空、山頂が雲の中の御岳、乗鞍、穂高連峰、白山連峰、残念ながら眺望出来ませんが気持ちの良い山頂です。

此处からは尾根道を下山口の上之田登山口へ下ります。途中、沢の水場あり後は黙々と下るだけです。足の疲れの限界の人もいるがリーダー、サブリーダーの方々の指導により登山口17時45分着。

各班自由にバス亭までの林道歩き1時間45分の予定の距離を、ヘットランプ無しで全員無事19時まで到着し、新富観光に22時10分着解散。お疲れ様でした。



ご案内

月日	内容	場所など	備考
8/5-7 (金-日)	山岳写真展 第19回日本山岳写真協会 北陸支部展 '11 山の断章	9:00-18:00(ただし最終日は 17:00) 富山県民会館2FギャラリーC	主催 日本山岳写真協会 北陸支部 参加自由
8/6-7 (土-日)	(富山市山岳協会) 第21回 自然を楽しむ市民登 山教室	新穂高温泉～双六小屋(泊)～ 双六岳～新穂高温泉	主催 富山市山岳協会 締切済
8/26-28 (金-日)	(岳連)中高齢登山講習会 「沢登り講習会」	折立登山口集合～薬師沢小屋 (泊)～赤木沢～太郎平小屋 (泊)～折立登山口解散	8/12申込締切 参加費 25,000円 事前講習会 8/19(金)18:30～ 富山県民会館
9/5-6 (月、火)	月例山行 (00会との交流)	7:00立山駅集合～室堂～五 色ヶ原(泊)～室堂～立山駅解 散	8/21申込締切 参加費 10,000円 交通費は各自負担
9/28 (水)	支部役員会	18:00木戸自工	役員の方お願いします
10/15-16 (土、日)	(本部) 全国支部懇談会 宮城支部主管	15日15:00記念講演、懇親会 (栗原市栗駒町ハイルサーム栗駒) 16日記念山行A栗駒山 B世界 谷地原生花園散策	8/26申込締切 参加費 18,000円 支部一括で申込します。 8/21事務局まで 記念山行A,Bを明示願いま す。
10月	月例山行	寺地山	詳細は後日案内します。

会員異動

退会 相澤増平(9953) 6月

物故 仲俣新一(9867)'11.7.19 ご家族のコメント「ハーモニカなど多趣味な人でした。」



創立50周年記念誌コメントから

諸先輩の築かれた尊い半世紀に思いをはせ、支部創立50周年を心からお喜び申し上げます。入会以来、全国支部懇談会で比良・大山・大雪・蔵王と歩いたことが楽しく思い出されます。近頃はもっぱら、魚津植物友の会の行事が主で、谷川・富士・志賀高原・立山・裏磐梯等の新緑・紅葉で低山徘徊を楽しんでいます。

「煩惱と一緒に歩く遍路杖」新一 慎んでご冥福をお祈りします。

編集後記

7月は伊吹山・槍ヶ岳と播隆上人と係わりのある山行が重なりました。(槍ヶ岳は次回会報で報告)
また少し播隆さんに近づけたような気がします。

(社)日本山岳会富山支部 会報第87号
発行 (社)日本山岳会富山支部支部長 山田信明
事務局 〒931-8451富山市銀嶺町10-16 金尾誠一
TEL 076-438-2716
Eメール s-kanao@pf.ctt.ne.jp